



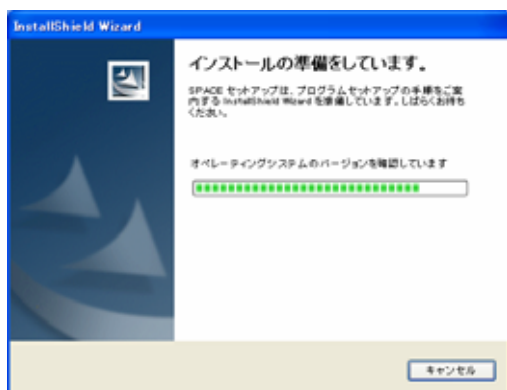
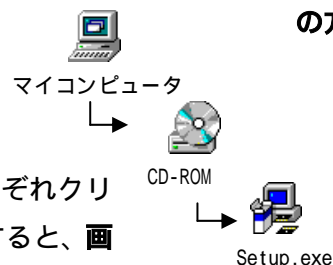
第2章 インストール

SPACE システムのインストールは以下の操作で行う。

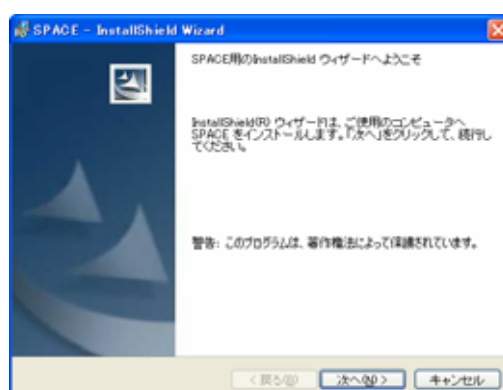
SPACE システムが保存されている CD-ROM を
CD ROM ドライブに挿入する。

【マイコンピュータ】 【CD-ROM ドライブ】アイコンをそれぞれクリックする。フォルダ内にある *Setup.exe* アイコンをクリックすると、画面1が表示され、インストール準備が始まる。画面2で内容をよく読み、確認した後【次へ(N) >】ボタンをクリックする。

2.1 インストールの方法



画面1 インストール準備

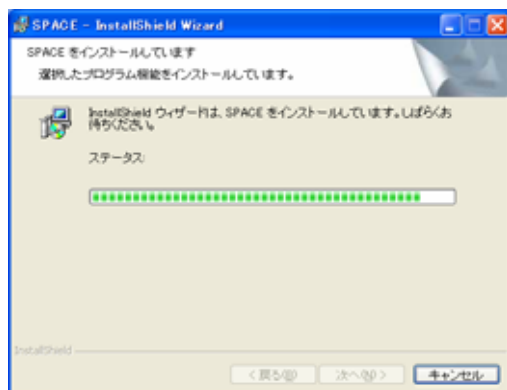


画面2 ようこそ

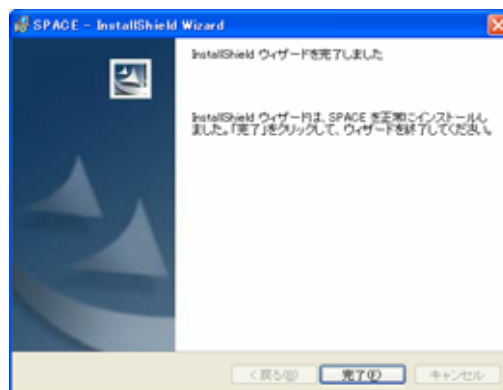
画面3では、SPACE システムのインストールが開始されます。

画面4が表示されると、インストールは完了です。

【完了】ボタンをクリックし、終了させた後、Windows 画面左下の【スタート】 【プログラム】 【SPACE】 SPACE 2.30 を選ぶと SPACE が起動する。



画面3 インストール開始



画面4 セットアップの完了

システムを使用するには、地震加速度ファイルが必要である。システム内には、開発プロジェクトが用意した人工地震波がこの SPACE システムをインストールしたフォルダの下に **Earth** フォルダに 2 波セットされている。この地震波を利用してマニュアルも書かれている。ただし、実際にユーザーが使用する場合は、Elcentro や Taft などの多くの波形が必要になってくる。波形は建築学会などから購入し、システム管理者が設定されたい。また、SPACEVer.3.00 には、スペクトルフィティングによる人工地震波を作成するシステムが組み込まれた。このシステムを利用して目標応答スペクトルにフィットした地震波を作成することができ、直ぐに SPACE の動的解析に利用することができる。なお、地震波ファイルの仕様は、非常に単純であるが(リファレンスマニュアルの 4-8 節、地震加速度ファイルの項を参照) このシステム特有であり、他から地震波を購入し、SPACE に組み込む場合は、注意してファイルを作成し、セットされたい。登録は、地震波を管理するフォルダに地震波ファイルをコピーするだけでよい。ただし、重要なファイルなのでこのフォルダは、通常、書き込み禁止にすべきでしょう。システム管理者のみ登録可能となるように設定されたい。なお、人工地震波ファイルは、各ユーザーが独自にフォルダを作成し、管理すればよいでしょう。

さらに、SPACEVer.3.00 で新たに、立体フレームの解析で剛床仮定がモデル化、任意型の静的縮合モデルの使用、ファイバーモデル履歴特性の大幅な増加、木造用パネルの履歴などが使用できるようになった。これらの詳細は、第 4 章ファイル仕様を参照されたい。

今回 SPACEVer3.00 では、3 次元せん断弾塑性モデルの履歴特性の S 字型スリップバイリニアと 3 点折れ S 字型スリップモデルを新たに追加した。

SPACE システムを削除する場合は、以下の操作を行う。

【操作手順】

1. 実行中の全てのアプリケーションを終了させる。
2. [スタート]ボタンから[設定]メニューを選択して、[コントロールパネル]コマンドをクリックする。
3. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。
4. 削除できるソフトウェアの一覧から[SPACE]をクリックして選択し、[変更 / 削除]ボタンをクリックする。
この操作によって、SPACE システムが安全に削除される。

2.2 SPACE システム の削除方法

